

2006年11月発行
第1号

留萌ダム水源地域 ビジョン検討会だより

「第1回留萌ダム水源地域ビジョン検討会」を開催しました！



平成18年10月24日（火）18時より、港南コミュニティセンターで「第1回留萌ダム水源地域ビジョン検討会」が開催されました。検討会には、19名の検討委員と関係行政機関職員が参加し、会場は初回のほどよい緊張感と熱気に包まれました。

まず、諏訪義雄留萌ダム建設事業所長から開催の挨拶があり、その後、留萌ダム建設事業所職員から留萌ダム水源地域ビジョンの目的や進め方、留萌ダムの概要について説明を行いました。

その後、検討委員はもちろん、会場にいる人全員より、参加の動機などの一言を添えた自己紹介を行いました。

休憩を挟み、検討委員が3つの班に分かれて、留萌ダムへの思いや今後展開していきたい活動等について意見交換を行いました。



▲説明の様子



▲活発な質疑の様子



▲自己紹介の様子

留萌ダム水源地域ビジョン検討会の目的と構成

●目的

「留萌ダム水源地域ビジョン」とは、留萌ダムが建設される水源地域（チバベリ川）及び流域（留萌川）の自治体である「留萌市」、そこで生活する「留萌市民」が留萌ダムを建設・管理する「留萌開発建設部」と共同で策定する水源地域活性化のための行動計画です。

留萌ダム水源地域ビジョン検討会では、ダム周辺の森林や道路を管理する「留萌南部森林管理署」、「留萌支庁」と連携し、水源地域活性化のための行動計画について議論していく予定です。

●構成

- ・検討会委員27名（一般公募による留萌市民）
- ・留萌開発建設部（ダム事業者、河川管理者）
- ・留萌市役所（水源地および流域自治体）
- ・留萌南部森林管理署（国有林管理者）
- ・留萌支庁（道道留萌北竜線管理者）

班会議の中で出された主な意見

初回にもかかわらず委員による活発な意見交換が行われ、あっという間に会議予定時間である2時間が経過してしまいました、主な意見を以下に紹介します。

緑化の推進・生物の生息環境 への配慮が必要である

- ・ダムができることで影響を受ける生物等への配慮が必要である。
- ・ダム周辺環境の緑化を進める事が必要である。



▲班会議の様子

ダムや周辺環境を地域資源 として役立つもの

・活用できるものにしたい

- ・自然を活かし、子どものための環境教育や市民が楽しめる場としたい。
- ・あまり知られていない地域の魅力の適切な方法での提供が望まれる。
- ・水辺の魅力を活かした活動を行いたい。
- ・人々が楽しめる場となると良い。
- ・ダムを活用したコミュニティビジネスを展開したい（ロケ地誘致など）。
- ・ダム事業が負の遺産にならないようにしていきたい。

市民を巻き込んだ事業展開が 必要である

- ・ダム事業に市民が関わり、そのような活動を通じまちを元気にしたい。
- ・湖底となるチバベリにすんでいた人たちを語りべとしてはどうか。
- ・活動を通じ、地域に貢献している、地域が潤っていると感じることで、心の豊かさ（精神面での利益）につなげていけると良い。
- ・地域資源についての情報提供が必要である。

今後の予定

第2回留萌ダム水源地域ビジョン検討会は、12月中旬に開催予定です。

■留萌ダム水源地域ビジョンに関するお問合せ

国土交通省北海道開発局留萌開発建設部 留萌ダム建設事業所
留萌ダム水源地域ビジョン事務局（担当：環境係）
〒077-0037北海道留萌市沖見町3丁目91番
電話：0164-42-5831 Fax：0164-42-0195